

創立記念日によせて

九月十三日、本校は百三十一回目の創立記念日を迎えます。

本校は永い歴史と伝統のある学校として世に知られ、今日に至っております。

一八八九年の創立以来、「変則」ではない「正則」な教育を志した創立者の先生方の精神を絶やすことなく受け継ぎ、その時、その時代の正則生と教師が、この学舎で、現在の私たちのように、学び、喜び、そして、時には苦しみや悲しみを乗り越えて、今日まで正則を支え創ってきた歴史があります。それなくして本校の今日はないことに想いを馳せ合いたいと思います。

この百三十一周年という節目に立って、ここまでの歴史の上に、私たちが次なる正則への一步を刻んでいくのだという、その気持ちと姿勢を新たにしようこと、それが創立記念日に際して求められることであり、記念日を意味あるものとする私たちのとるべき姿勢であると思います。

私たちは今、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大によって様々な影響を受けています。日本においては感染者は一定減少傾向にはありますが、この間、社会活動は制限され、経済的にも厳しい状況におかれていらっしゃる方が大勢いること、また感染者や医療従事者等への差別や偏見があることも報道されています。これら様々な課題、世界で起きている諸課題から目を背けず、すべての人々が幸福に生きることのできる社会の在り方を探り、その諸矛盾と課題に立ち向かう問題解決の力が求められています。創立者の先生方が「正則の教育は、知識のみに偏重することなく、豊かな人格の創造をめざす」とした創立の精神は、今こそ私たちに「知識と科学を正しく使える人間」になるために学び、育つことを求めているのだと思います。

今年度はコロナの影響により、例年のように十分な学校生活ができない、もどかしさの中でも、生徒の皆さんが日々の高校生活から学ぶ意味を探索し、意欲をもって学習に立ち向かい、制約のある中でもクラス活動をはじめ、部活動などにも一生懸命に取り組んでくれることを心から願っています。

この期に、私たちが、ここまでの歴史をしっかりと引き継ぎ、共学校としての正則の歴史をさらに前へと踏み出していこうとする自覚の上に、創立記念日を迎え合うことをここによりかけます。

二〇二〇年九月十二日

正則高等学校

校長 千葉 修一

生徒のみなさんへ

保護者各位

■本校を創立した三先生

・外山 正一（一八四八年～一九〇〇年）

東京大学総長・文学、哲学、理学などで教育界に貢献

・元良 勇次郎（一八五八年～一九一二年）

初代校長・東京大学教授、日本の心理学の先駆者

・神田 乃武（一八五七年～一九二三年）

第二代校長・一橋大学教授、日本の英語教育の開拓者